



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：阿波谷敏英、川上和徳
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 川上和徳
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail jpocardk@yahoo.co.jp

★ 2025 年度 四国ブロック支部 専攻医オリエンテーション&ポートフォリオ発表会

所属： 高松平和病院 植本真由
愛媛生協病院 原 穂高

この度、下記の日程で専攻医オリエンテーション・ポートフォリオ発表会を行います。

期日：2025 年 4 月 26 日(土)
時間：13 時受付 13 時半～16 時半
場所：香川大学医学部附属病院
福利厚生施設棟 2 階マルチスペース
(香川県木田郡三木町池戸 1750-1)
方式：現地参加+オンライン(Zoom)
会費：無料
対象：JPCA 新・家庭医療専門研修プログラム専攻医、
日本専門医機構 総合診療専門研修プログラム
専攻医、指導医、関係者



メイン講演には昨年ベストアルバム『「卓越したジェネラリスト診療」入門』をリリースした藤沼康樹先生をお招きします。専攻医をはじめ研修に興味関心のある皆様、是非ご参加をお願いいたします。

Welcome

日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック
新専攻医歓迎オリエンテーション
ポートフォリオ発表会

2025年春、四国に新専攻医を迎えます。
集い、学び、交流しましょう。
メイン講演には昨年ベストアルバム「卓ジェネ」を
リリースした藤沼先生をお招きします。

日程 開催日：2025年4月26日(土)
時間：13時受付 13時半～16時半
方式：現地参加+オンライン(Zoom)
場所：香川大学医学部附属病院
福利厚生施設棟2階マルチスペース
会費：無料(駐車券は会場にご持参下さい)
申込：4月20日〆切。申込フォームはQRコードから→

内容 13:30 開会の挨拶
13:35 新専攻医自己紹介
14:05 専攻医部会紹介・専門研修オリエンテーション
14:45 ポートフォリオ発表会
15:15 メイン講演会
生協淳間診療所 所長/医療福祉生協連
家庭医療学開発センターCFMDセンター長
藤沼康樹先生
16:15 閉会の言葉
16:30 より専攻医同士の交流(現地のみ)
生涯学習単位・Off-JT単位(教育)
現地参加2単位、オンライン参加1単位

連絡先 主催：日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部
担当：高松平和病院 内科・家庭医療科 植本真由
mikkiki0119@gmail.com



★ 総合診療セミナー「総合診療における漢方」を開催しました

所属： 高知大学医学部家庭医療学講座 岩下演久

2025 年 1 月 25 日(土)、高知家総合診療専門研修プログラムの主催で「総合診療における漢方」をテーマに総合診療セミナーを開催しました。

講師として日本プライマリ・ケア連合学会の雑誌「プライマリ・ケア」に漢方をテーマに連載されておられる飯塚病院 東洋医学センター 漢方診療科の吉永亮先生においでいただきました。

高知家総合診療専門研修プログラムの専攻医、指導医はもちろん、総合診療を進路に考えてくれている研修医、学生だけでなく、薬剤師の方も参加していただきました。

セミナーは山にある診療所、海の近くにある診療所で先生が経験されてきた症例を基に、「外因」、「内因」、「不内外因」に大きく分けて説明いただきました。

「外因」の例として、山の診療所では「冷え」が多くみられたこと、海の近くの診療所では「水毒」に伴う症状が多くみられたことや、高齢化し「独居」や「老々介護」が社会的な問題となる中で「内因」として「気」の異

常が起きやすく、大きく「気虚」、「気鬱」の違いなどの説明をいただいた上で、「外因」、「内因」それぞれ対しての漢方の具体的な処方や調整の仕方についてもお話しいただきました。また、「不内外因」の例として、普段の診療でもみる機会の多い捻挫や外傷に対しての「治打撲一方」の処方などもお話しいただきました。

休憩の後には吉永先生が漢方での身体診察を、実際にやっていただき「腹診」などなかなか自分では勉強する機会の少なかった診察法も見せていただき、希望者がそれを実際に体験することもできました。質疑応答も活発に行われ、総合診療を専門にしている医師だけでなく、麻酔科、耳鼻咽喉科、消化器内科など先生方からの質問もあり、各専門領域での活用についても勉強することが出来ました。



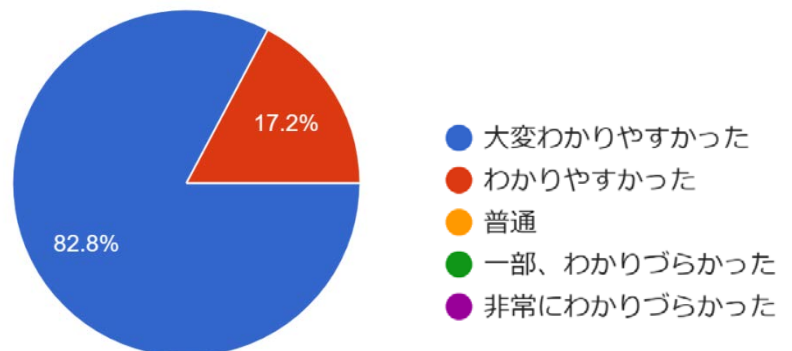
今回のセミナーを通して、患者さんの訴えに対して、疾患の治療だけでなくその背景にも目を向けて処方をしていくという漢方の考え方は、総合診療に親和性が高いことを改めて気が付きましたし、今回のセミナーをきっかけとして漢方の勉強を進めていきたいと感じました。

受講後のアンケート(回答者 29 人)では、「セミナーのわかりやすさはどうでしたか」という質問には、大変わかりやすかつ

た 82.8%、わかりやすかった 17.2%、「セミナーの内容は期待したものと一致していましたか?」という質問には、期待以上であった 72.4%、ほぼ期待通りだった 27.6%、と参加者の皆さんの持つ期待に応えることが出来たのではないかと思える結果となりました。自由意見でも「治療の新しい選択肢が増えた」といった普段の診療へ取り入れてきたいという意見だけでなく、「症状から漢方を選んでいたが、その人自身の体質など見て選んでみようと思いました」、「腹診は腹部症状を見る延長線で、意識してみようと思いました」といった今回のセミナーの学んだことから、自身の漢方処方を変化させていきたいといった意見があるなど、皆さんにとって有意義なセミナーであったことが伺えました。

吉永先生に心より感謝申し上げます。

セミナーのわかりやすさはどうでしたか
29 件の回答



★ 第6回 Sanuki GM Conference のご報告

所属：香川大学医学部附属病院総合診療科教授 市来智子
(かがわ総合診療研究会副会長)

第6回 Sanuki GM Conference が2025年1月11日(土)、当番世話人である香川大学医学部附属病院総合診療科のもと、同病院福利厚生施設棟2階マルチスペース・スキルスラボ3階にて開催されました。香川県内の総合診療専門研修プログラムの基幹施設・関連施設、香川県医師会・香川県医務国保課による「かがわ総合診療研究会」ですが、この開催も6回目となり、若手の先生方への教育機会・交流の場として軌道に乗りつつあると感じております。

今回は、島根総合診療医センター・センター長の白石吉彦先生をお招きして二部構成で行いました。一部は株式会社ツムラ共催で、まずの谷内田達夫先生(香川大学医学部附属病院総合診療科講師)より「消化器領域における漢方の使い方」についてショート・レクチャーを頂きました。機能性ディスペプシア、過敏性腸症候群における漢方の使い分けについて、先生の研究データも交えながらのお話でした。特別講演では、白石吉彦先生より「離島での総合診療の実際」についてのお話でした。その週は寒波が長く日本列島上空に居座っていて、白石先生のお住まいの隠岐は数日間大荒れの状況でした。フェリーも欠航の状況が続き Web 開催になるのかと気をもんでおりましたが、なんとかフェリーが臨時運航できたとのことで、うまく北風に乗って本土上陸、香川まで来てくださいました。荒

れ狂う日本海の動画、雪の積もる中国山地、隠岐で養蜂をされているところ、ヤギの口に刺さった釣り針を抜きに往診される動画など、楽しい写真・動画と数多く見せて頂きました。診療だけでなく、総合診療分野での漢方使用に関する研究までご紹介いただきました。島根の総合診療は今熱く盛り上がっていて白石先生の総合診療センターを中心に若手が集まっている



ところですが、診療をとっても楽しく陽気にお話されるお姿を拝見し、私も一緒にお仕事がしたくなりました。学生さんや研修医の先生方からも多くの質問を頂き、もっと時間があれば・・・と思ったほどでした。

第二部は「“総合診療的” 超音波ハンズオントレーニング」と題しまして、エコーハンズオンを行いました。白石先生の関節エコー、谷丈二先生(香川大学地域医療総合医学講座特任教授)の腹部エコー、石川かおり先生(香川大学医学部附属病院総合診療科講師)の心臓エコー、丸山哲夫先生(香川大学超音波センター主任技師)の頸部エコーの4領域について初期研修医・専攻医の皆さんを中心に経験いただきました。どのエリアも皆さん一生懸命に取り組まれ、楽しそうに勉強されているのが印象的でした。また、ハンディエコーも展示して頂きましたが、最新のハンディエコーはいろいろな機能が備わったり、画像もかなり良くなったりしていましたよ！皆さん興味があったらぜひ学会のエコー展示などの機会に触ってみてくださいね。

終了後は高松市内のJRクレメント高松にて懇親会を行いました。世話人会・初期研修医・専攻医を含めました15名の参加でしたが、楽しく和気あいあいと交流の時間を持つことができました。島根・香川の交流も今後益々盛んになっていきそうです。

かがわ総合診療世話人会、そして香川大学医学部附属病院総合診療科としても引き続き若い皆さんが楽しみ、興味を持っていただけるような勉強の機会を作っていこうと思っております。



【新しい総合診療専門医のご紹介】

高橋 良輔 先生（平成博愛会博愛記念病院）

徳島県で医師をしている高橋良輔と申します。

2021 年度から徳島大学 AWA 広域総合診療専門研修プログラムに参加し、今年度、総合診療専門医を取得することができました。紆余曲折あった私が、卒後 10 年目に基本領域の専門医を取得した経緯と今後の展望について少し触れさせて頂こうと思います。

振り返ってみると、私自身が医師になったのは保身的な理由からでした。医学に関わる研究者になりたいと思っていた高校時代、医学部以外の学部を考えていました。しかし、研究者として挫折した時の不安から国家資格を取っておきたいという気持ちが芽生え、医学部進学を決めました。大学卒業後は恩師の勧めもあり、初期研修修了後に公衆衛生大学院に進学しました。その後、製薬や公衆衛生に関わる研究者としての道を考えていましたが、「やりたいと思っていた仕事」と「楽しんでいる仕事」が解離している感覚があり、将来の進路で悩むようになりました。初期研修時代に臨床の楽しさを感じており、一念発起して総合診療医として第 2 の人生をスタートさせました。



総合診療科を選んだ理由は、一人の患者様が複数の診療科を受診している光景を目にした際に、自分が患者なら一人の医師に総合的に診てもらいたいと思ったからです。実際には自分だけでは解決できず、臓器別専門医に頼ることも多々ありますが、マクロな視点で「ヒトをみる」ことに関しては自信を持てるようになりました。

現在は、回復期リハビリテーション病棟で入院患者の診療や在宅診療を行っています。紆余曲折あった人生でしたが、最終的に総合診療医という自分にとっての天職にたどり着いたと心から感じています。

将来、総合診療科を考えている方へのメッセージです。

ヒトが好きで患者背景を考慮した診療をしたいと思っている方には最高の職業だと思います。また、私のよ

うに臨床を再開する診療科としてもおすすめなので、是非、門戸を叩いてくれたら嬉しく思います。

最後になりますが、今までご指導ご鞭撻して頂いた全ての方々にこの場を借りて深く感謝申し上げます。今後は患者様のために自己研鑽するとともに、まずは徳島県の総合診療医の育成に貢献できたらと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

★ 四国ブロック支部のお財布の話

所属： 高知大学医学部家庭医療学講座 阿波谷敏英
(四国ブロック支部長)

四国ブロック支部長の阿波谷です。平素よりブロック支部の運営に、ご協力いただき有難うございます。今回、お財布の話をしていただきます。支部総会ではお話ししていることですが、なかなか支部会員全員にお伝えできておりませんので、ニュースレターの紙面をお借りしましてのご報告です。

日本プライマリ・ケア連合学会では、各ブロック支部に年 1 回支部助成金が交付されます。この助成金は、基礎額として 40 万円、代議員および役員（理事・監事）1 人につき 1 万円が加算されます。2024 年度は、四国ブロック支部には代議員 30 人、理事 2 人が在籍していますので、合計 72 万円が交付されています。この資金をもとに、地方会や専攻医オリエンテーションの開催、支部会誌の発行など、ブロック支部の活動をおこなっています。規模の大きい他のブロック支部は地方会の開催経費も多く、資金の工面に苦勞されています。一方、規模の小さな四国ブロック支部では黒字会計が続いています。また、地方会の開催は、四国地域医学研究会との合同開催として、公益社団法人地域医療振興協会の費用で一部の企画を賄ったり、ハイブリッド開催の技術的、人的な支援もいただいたりしていることも、黒字会計に大きく寄与しています。地域医療振興協会の皆さまには、この場をお借りして心より感謝申し上げます。これまでブロック支部会費の廃止、地方会の参加費無料化により、会員の負担を軽くしました。現在も継続できているのは、このような健全な会計によるものです。

現在、四国ブロック支部は約 316 万円の累積黒字となっています（下図）。この累積黒字は、ブロック支部の会員活動の活性化に使用したいと考えております。2024 年 11 月開催の地方会では、託児所を設置することもできました。また、四国ブロック支部内の専門研修プログラムのサイトビジットの実施も検討されています。

今後も、健全な支部運営に努めて参りますので、支部会員の皆さまにはご理解、ご協力をお願いします。

